



Tokyo Tech

国立大学法人東京工業大学 スーパーグローバル大学創成支援事業

自己点検評価書・外部評価報告書（概要版）



Tokyo Tech

東京工業大学SGU自己点検評価 概要スライド

1. 目次（本ページ）
2. SGU構想で目指したビジョン
3. 東工大のSGU構想
4. ガバナンス改革
5. 教育改革
6. 東工大における国際経験
7. 研究改革
8. 世界を還流する「知」のハブ
9. 本学の特徴を示すSGU実績
10. 【まとめ】SGU事業の成果と課題、今後の展望
11. SGUから指定国立大学法人構想への発展
12. SGU事業終了後の自走化計画
13. キャンパス・イノベーションエコシステム
14. 世界最高の理工系総合大学を目指して

東工大がSGU構想で目指したビジョン※

真の国際化のためのガバナンス改革によるTokyo Tech Qualityの深化と浸透

◆ Tokyo Tech Qualityの深化と浸透



本学の伝統と実績に基づく教育研究の「質と実」

-130年余にわたる理工系リーダー人材の輩出と卓越した研究成果創出の実績

高度な理工系分野の教育と
人間力養成の重視

ものづくりの伝統と産学連携

高度な研究を通じた実践的教育



こうした「実を伴った質の高い教育研究」を世界水準で深化させ、
Tokyo Tech Qualityの人材と研究成果を世界に浸透させる
理工学分野の知と人材の世界的環流の「ハブ」としての役割を担う

ビジョン実現のための東工大のSGU構想

教育・研究・ガバナンス改革を一体とするSGU構想を立案

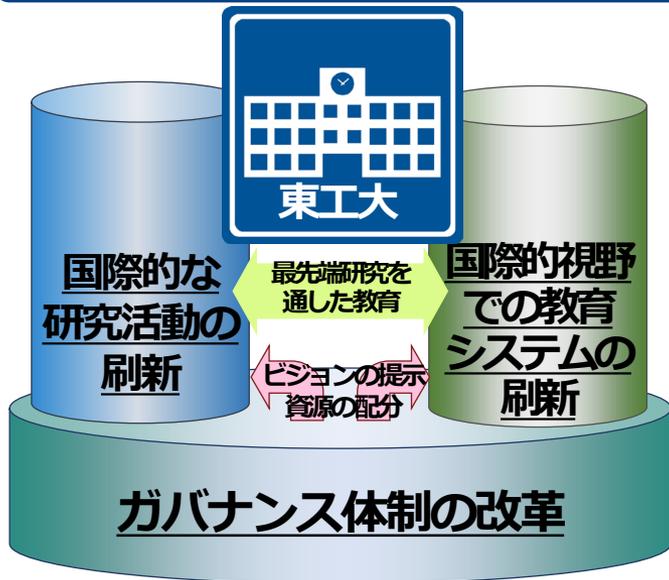
➤ 徹底したガバナンス改革を断行

「真の国際化」に必要な施策を強力に推進するためガバナンスを徹底して**改革**

教職員のマインドセットの変革、機能的な運営体制（戦略統括会議、TTAB等）、学長裁量資源の増強等



Tokyo Tech Qualityの深化と浸透



「真の国際化」に必要な施策 世界水準での教育・研究体制の構築と実施

➤ 国際的視野での教育システムの刷新：

- ・「世界のトップスクールとしての教育システム」の構築
- ・「学び」の刷新 ～学生が自ら学び考える教育へ～
- ・大胆な国際化の推進

➤ 国際的な研究活動の刷新：

「世界の研究ハブ」として新たな研究分野を開拓するための柔軟な研究体制の構築・環境整備

◆ **SGU事業採択が追い風となり、大学改革を強力に推進！**

ガバナンス改革

大学改革を進める強力な体制の構築

項目	改革前	改革後
1. 意思決定支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 情報活用IR室 ● TokyoTechアドバイザリーボード ● 戦略統括会議 	学長補佐室，学長アドバイザリーボードなどで大学改革について議論	左記体制に加え，下記の組織を設置。 <ul style="list-style-type: none"> ● 情報活用IR室（H27.4設置）：戦略的運営に必要な情報の管理分析を目的とし，専任教員と専任職員の配置を決定。 ● TokyoTechアドバイザリーボード：海外大学の学長等を招へいし、国際的知見に基づき、大学経営や教育研究活動等について広く助言を受ける体制を整備。 ● 執行部，部局長，事務職員が構成員として平等な立場で大学の戦略について議論する戦略統括会議の設置（H29.4）。 ● 18あった企画立案組織の4つの本部への改組（H29.4）。
2. 学長による部局長の選考	部局長の選考は，当該部局教授会の意向表明を受け，学長が行う	<ul style="list-style-type: none"> ● 学長のビジョンや大学の経営方針を共有し，その職責を果たすにふさわしい人材を選考するため，部局長の選考は，学長が指名することとした（H27.4.1に就任の部局長から実施）。 ● 指名を行うにあたっては，当該部局からの十分な情報収集を行う。
3. 学長裁量資源の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・人材面：部局管理・ポイント制 ・学長裁量経費：全学共通経費の3% ・学長裁量スペース：858単位（7.3%）※※H26時点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材面：教員人事を全学管理・学長裁量ポスト制に変更。部局の将来構想ヒアリングを毎年度実施し、大学として強化すべき分野へ重点的に教員配置できる制度とした。 ● 学長裁量経費：全学共通経費の5.25%（R2時点） ● 学長裁量スペース：1,616.5単位（13.8%）（R3.9時点）

1. 学部・学科，研究科・専攻から学院・系へ
2. ナンバリング導入
3. クォーター制
4. 初年次（100番台）カリキュラム
5. 大学院での文系教養科目履修必須化
6. 英語による講義の充実
7. 修士修了までに国際経験

改革前：学年進行

【年次】

博士3年次
博士2年次
博士1年次

博士論文研究
博士専門科目

修士2年次
修士1年次

修士論文研究
修士専門科目

学士4年次
学士3年次
学士2年次
学士1年次

学部専門科目

教養科目

改革後：達成度進行

【ナンバリング】

600番

博士論文研究
博士専門科目

500番

修士論文研究
修士専門科目

400番後半

400番前半 &
300番後半

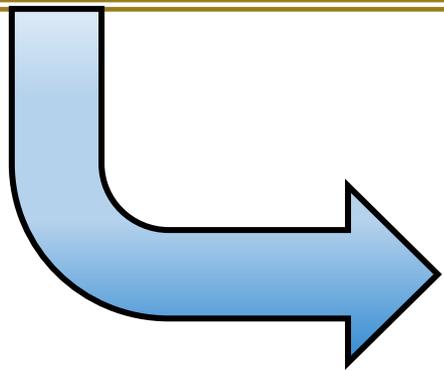
学部
専門科目

300番前半

200番

100番

教養科目



「真の国際化」に向けて
本学が掲げる人材像

卓越した専門性とリーダーシップを
併せ持つ人材がより良い世界を創る

卓越した専門性



- 理工系基礎科目の充実
- 基礎学力・専門能力
- 科学・技術により新しい社会を切り拓く気概

リーダーシップ



- 教養も含めた幅広い視野
- コミュニケーション能力
- グローバルな課題へ挑戦する力
- 世界に雄飛する気概と人間力

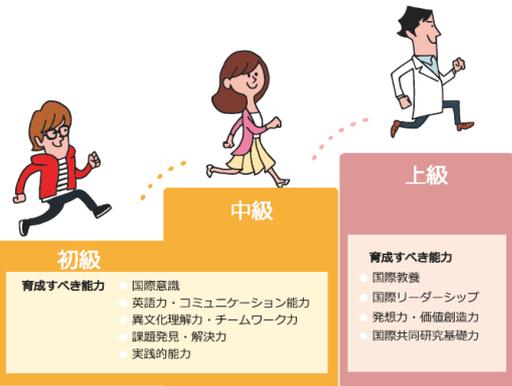


東工大における国際経験

学内外での多様な国際経験

グローバル理工人育成コース

「国際基礎力」「国際実践力」「国際協働力」を段階的に発展させる国際性涵養に特化した教育カリキュラム。グローバル社会の未知な課題に対応できる「科学・技術の力で世界に貢献する人材」の育成を目指す。



- 本コースは初・中・上級の3段階。初級・中級は学士・修士課程、上級は中級を修了した修士課程が対象。
- 約10日間の**短期派遣プログラム**を年間11件運用
- **留学コンシェルジュ**が**留学情報館**に常駐し、学生からの留学相談に対応。
- 令和2年度末のコース所属生数は2,264名（初・中級 2,207名、上級57名）
- コース開始の平成25年度の所属生数185名からは**約12倍**に増加。新入生の約4割が本コースに所属。
- 令和2年度には**国際交流施設Taki Plaza**が新設され、留学情報館も移転。**ワンストップサービス**で**学生に情報提供**できる環境を整備。

国際交流施設「Hisao & Hiroko Taki Plaza」

隈研吾事務所提供

- Student-Centeredを実現する場
- 学生が主体となり運営を行う場
- 学生が「つながる」場



令和3年4月開館



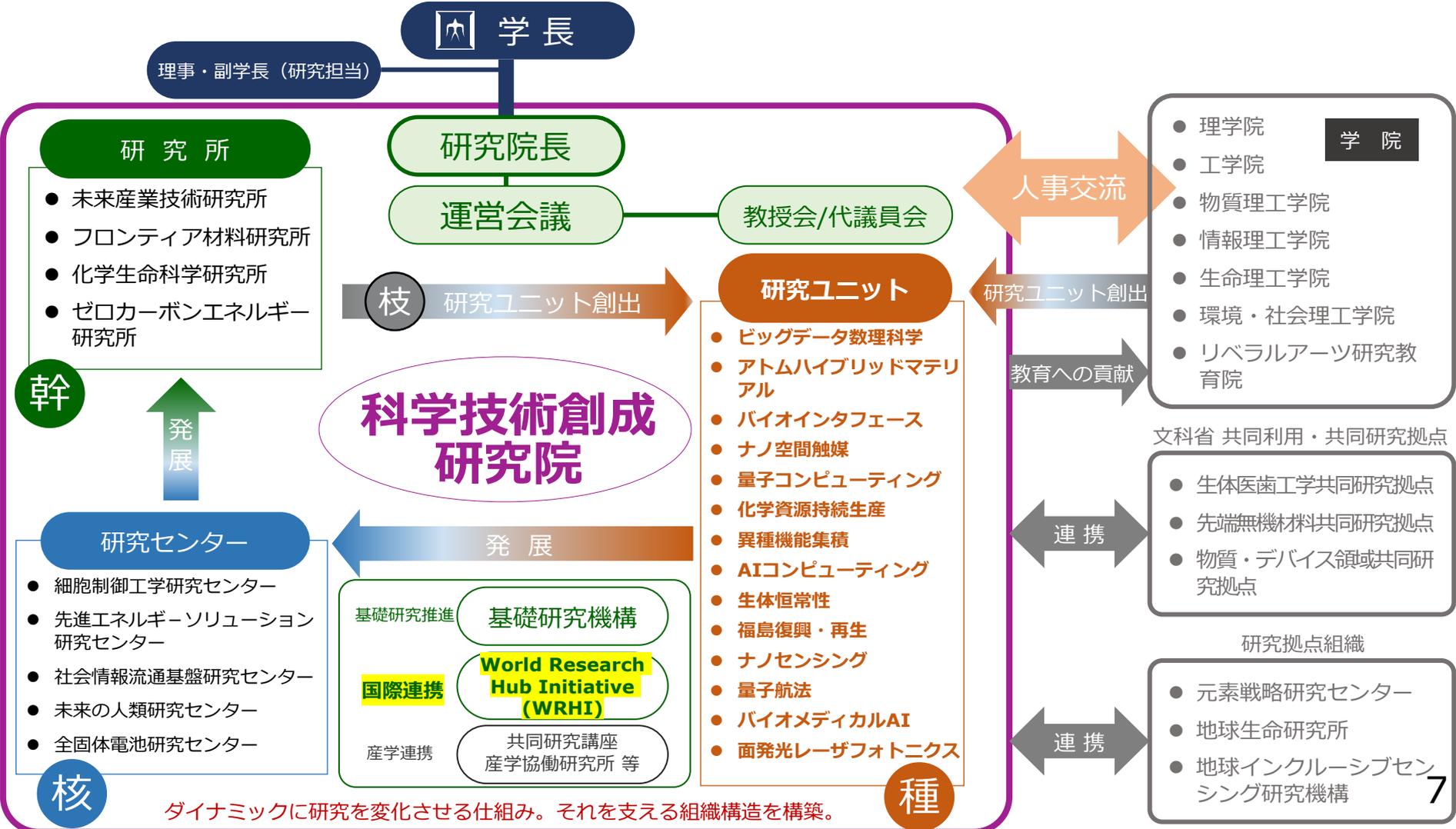
学生が主体となって、
利用方法を立案

<建物コンセプト>
外国人学生と日本人学生がここで出会い、絆を深め、共にまだ見ぬ未来を生み出そう

研究改革 国際的な研究活動の刷新

1 部局体制（科学技術創成研究院）により研究組織の新陳代謝を活性化。異分野研究交流のハブへ。

- 「科学技術創成研究院」を創設（平成28年4月）。
- 最先端の尖った研究を小規模チームで機動的に推進する「研究ユニット」を設置。
- 科学技術創成研究院内に、世界トップクラスの研究者の異分野交流を促進する「WRHI」を構築。



世界を環流する「知」のハブ

国際研究活動を大きく推進

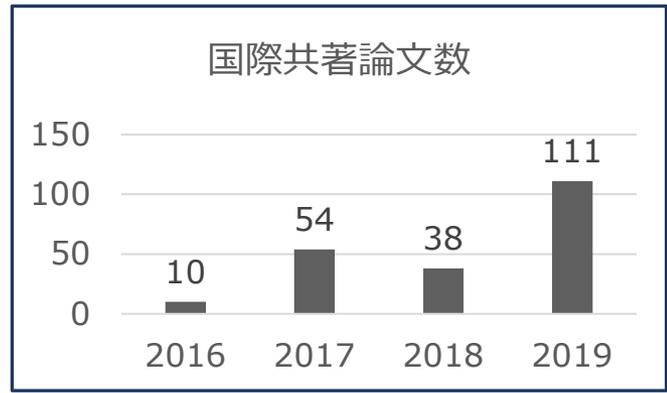
● **WRHI - Tokyo Tech World Research Hub Initiative -**

◆ 学生も共同研究に参加

海外の優秀な研究者を招へい（雇用）し、国際共同研究を推進する世界トップクラスの研究者の異分野交流を促進する「世界の研究ハブ」

Year	Employed	Visiting
2016	23	29
2017	30	20
2018	58	9
2019	72	6
2020	80	4
Total	263	68

《主な招へい教員の所属機関》
 ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学（アメリカ）／ケンブリッジ大学、オックスフォード大学（イギリス）／スイス連邦工科大（スイス）／マックスプランク研究所、ベルリン工科大学（ドイツ）／インド工科大学（インド）



● **Tokyo Tech ANNEX**

現地の研究機関や企業の研究者に本学の最先端の科学・技術を紹介し、共同研究の開始や国際ファンドの獲得、博士共同指導プログラムなどを実現

海外のパートナーと共同で、国際的な教育プログラム・国際共同研究の seeds を掘り起こすことを通じて、質の高い教育・研究に貢献する

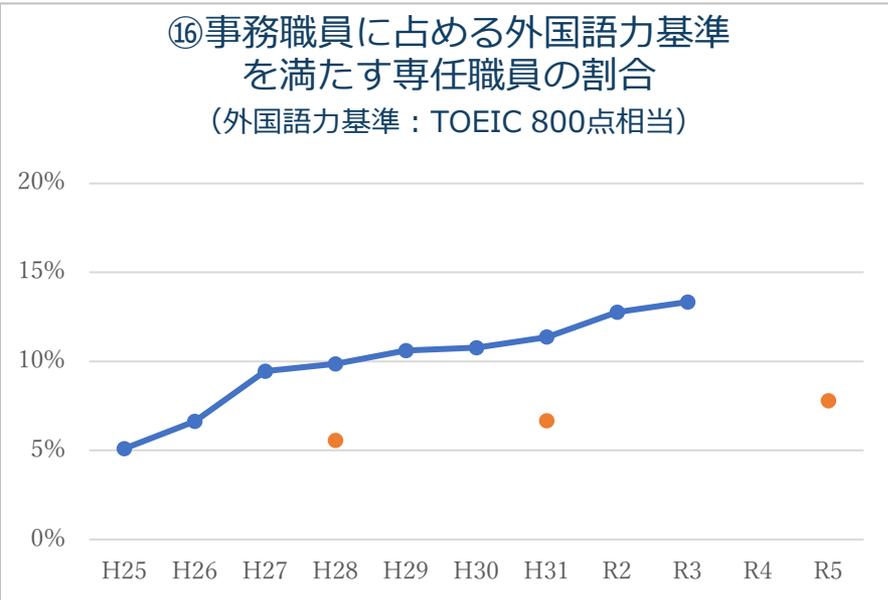
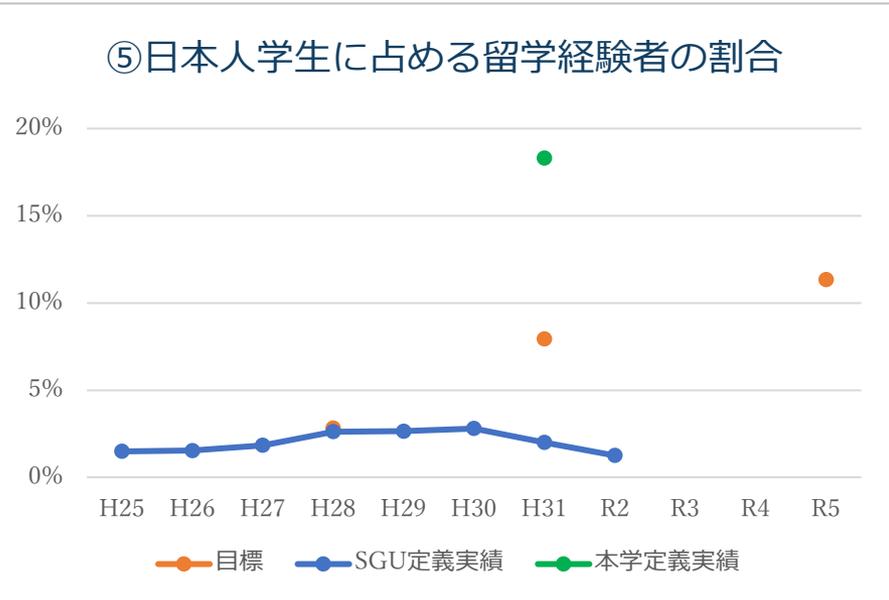
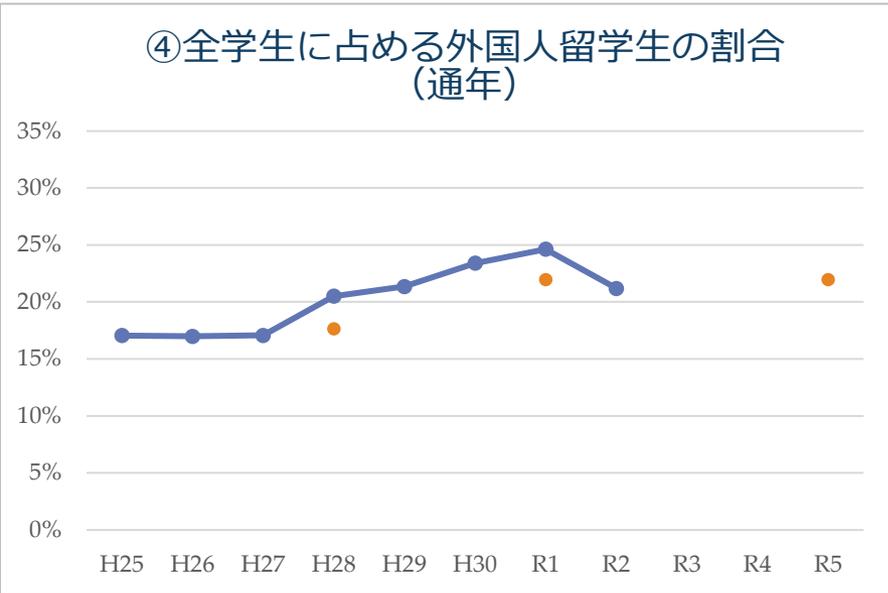
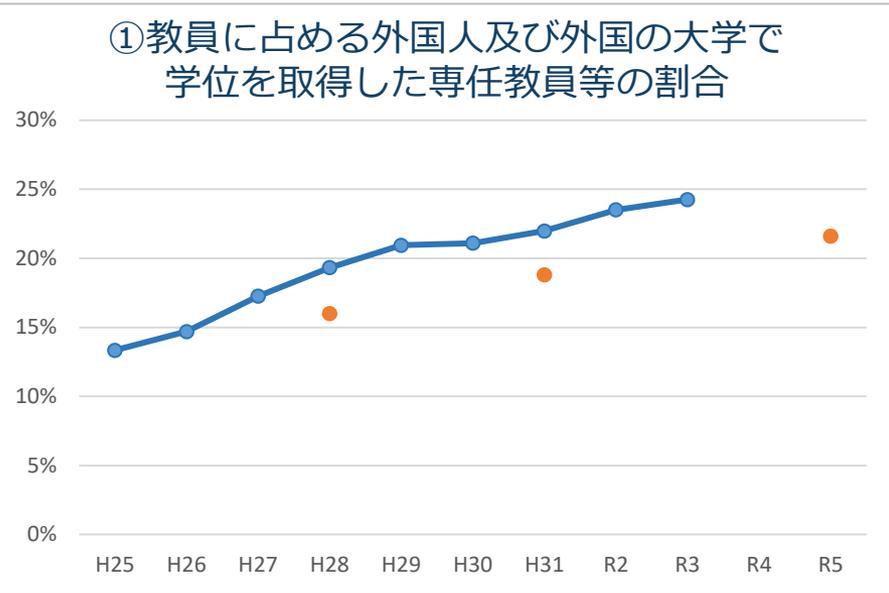


第4期中期目標期間では、これらの海外の研究者のリクルート、支援体制、国際的な研究者交流支援等の機能を活かし、

▶ **“International Research Frontiers Initiative (IRFI)” を設置**

本学の研究戦略に基づき、国際的な連携のもと未開拓・革新性の高い研究に挑戦する、世界最高水準の研究拠点を複数擁する「国際先駆研究機構」。新たな知や価値の創出に貢献できる人材を学内外から集め、科学技術の飛躍的發展を目指す。

本学の特徴を示すSGU実績



【まとめ】本学SGU事業における成果と課題、今後の展望

1. 国際水準のガバナンス体制の実現

- 抜本的な組織改革 →学長の強力なリーダーシップの下、全学一丸となって大学改革を推進
- Tokyo Tech アドバイザリーボード (TTAB) の設置 →世界水準のガバナンスの実現へ

2. 教育改革による学生の主体的学びの実現

- 学院の創設 →大学入学から大学院修了までを見通した、学生自らの関心に基づく多様な選択・挑戦が可能に
- ナンバリング・授業の英語化 →世界水準の教育システムの整備
- リベラルアーツ研究教育院 →大きな志、豊かな人間性を育てる教養教育

外国人留学生の割合
H25実績：17.1%
→ R2実績：21.2%

3. 国際的な研究活動の刷新

- 科学技術創成研究院の設置・研究組織整備 →国際研究活動が大きく加速
- WRHI設置 →世界トップクラスの研究者との異分野交流を促進
- Tokyo Tech ANNEX →新たな国際教育・国際共同研究のseedsを発掘

国際共著論文の割合
H25実績：28.67%
→ R2実績：41.2%

課題と今後の展望

(R2中間評価指摘事項も踏まえて)

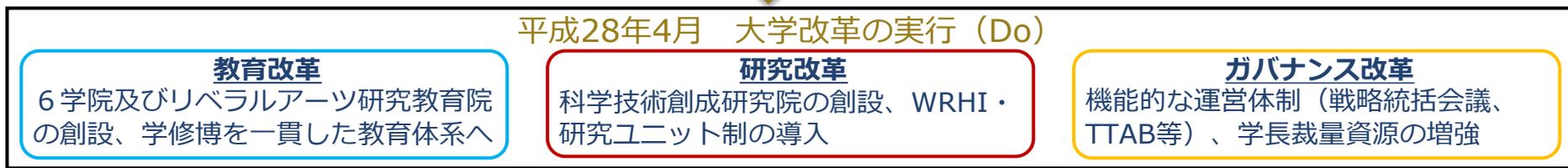
◆ 学生の海外派遣はコロナ禍により大きく減少

➔理工系総合大学である東工大では、専門的な研究活動を伴う「国際経験」を推奨

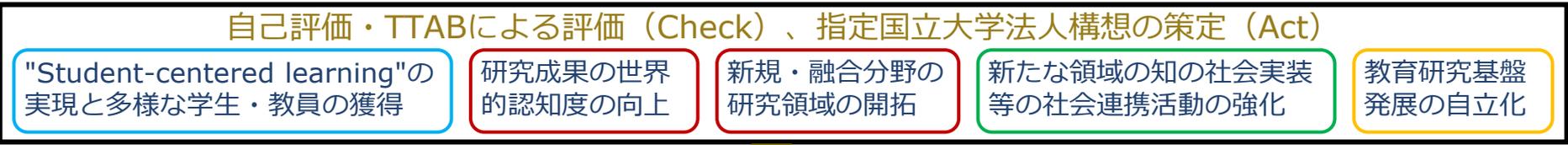
- ・ 第4期中期目標・中期計画では、修士修了までに国際経験を経た学生の割合90%以上を評価指標に。
- ・ オンライン等を活用した多様なプログラム、学生のニーズに合わせた国際経験の機会を広く提供。
- ・ 授業の英語化を更に促進（令和2年度末時点、大学院では93.9%英語化※）。スムーズに大学院の英語授業に移行できるように、学士でも専門用語等の日英両表記・既習内容を英語で学修する演習科目の開講等を開始。
※日本語で実施するのが望ましい授業科目を除いた全授業科目を母数とした割合
- ・ これまで実績値の追跡が難しかった学生の研究出張・学会参加等の国際経験についても、実績値の可視化・分析のできる体制を整備。

SGU構想から、指定国立大学法人構想へ

➤ SGU構想実現による成果



➤ SGUから指定国立大学法人構想へと発展 (SGU構想を超えた取組)



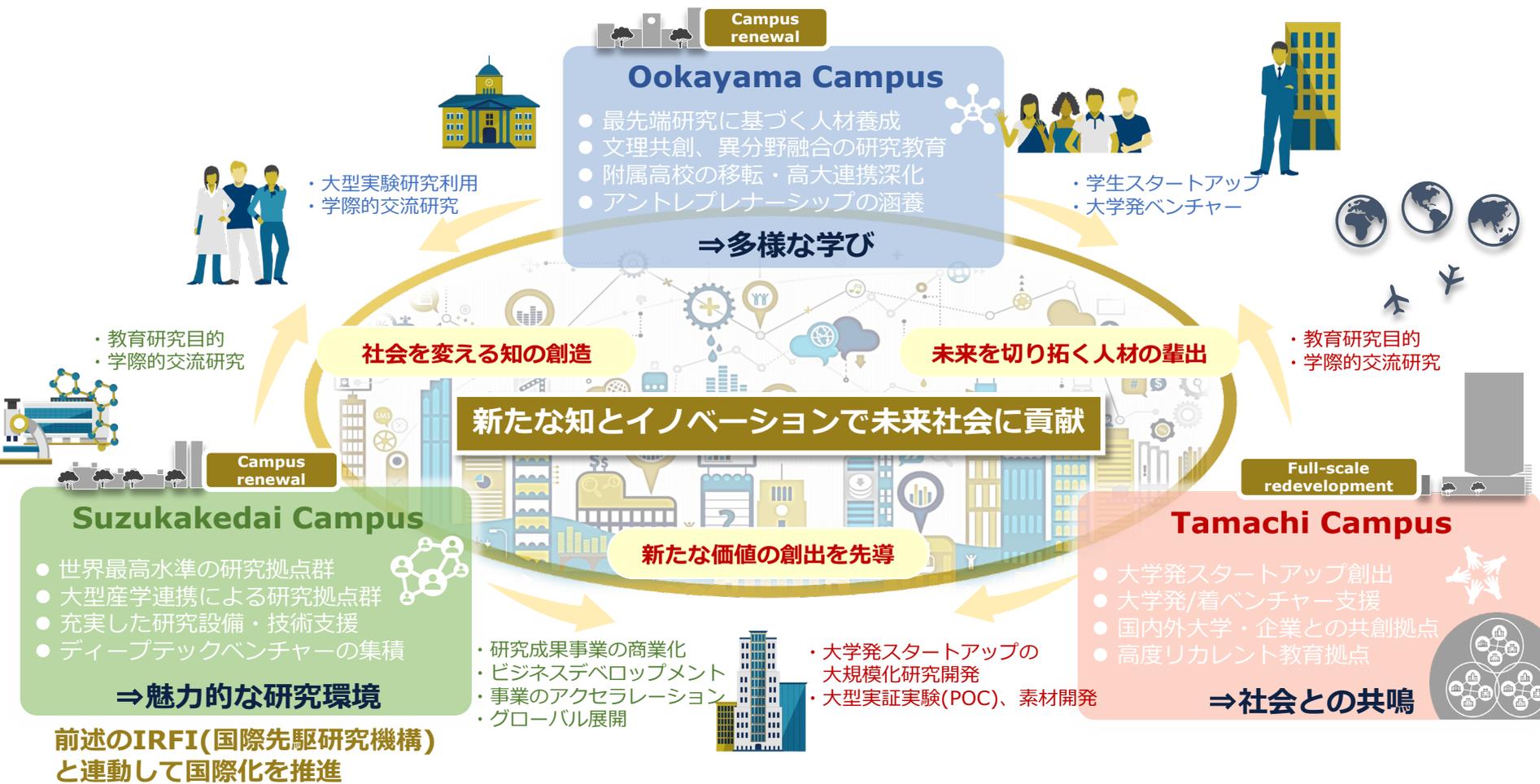
平成30年3月、指定国立大学法人への指定

教育研究・国際協働等の更なる高度化と経営改革の促進

- B2Dプログラム
- 卓越大学院
- 国際交流施設Taki Plaza新設
- 学生への経済支援
- 重点分野・戦略分野、文理融合
- Tokyo Tech ANNEX
- 基礎研究機構、若手研究者支援
- オープンファシリティセンター
- IRFI(国際先駆研究機構)
- 未来社会DESIGN機構
- オープンイノベーション機構
- 株式会社Tokyo Tech Innovation
- ベンチャー育成・支援
- 戦略的経営オフィス
- アドバンスメントオフィス
- 次世代人事戦略（新年俸制、高度専門職員、マネジメント人材育成等）
- 田町キャンパス土地活用事業

キャンパス・イノベーションエコシステム

新たな知とイノベーションで未来社会に貢献



「世界最高の理工系総合大学」を目指して

東工大と世界の持続的な発展に資する「好循環」

科学技術の新たな可能性を掘り起こし、社会との対話の中で新時代を切り拓く
「世界最高の理工系総合大学」の実現

レピュテーション向上による国内外の優れた人材の誘引、社会貢献の高度化

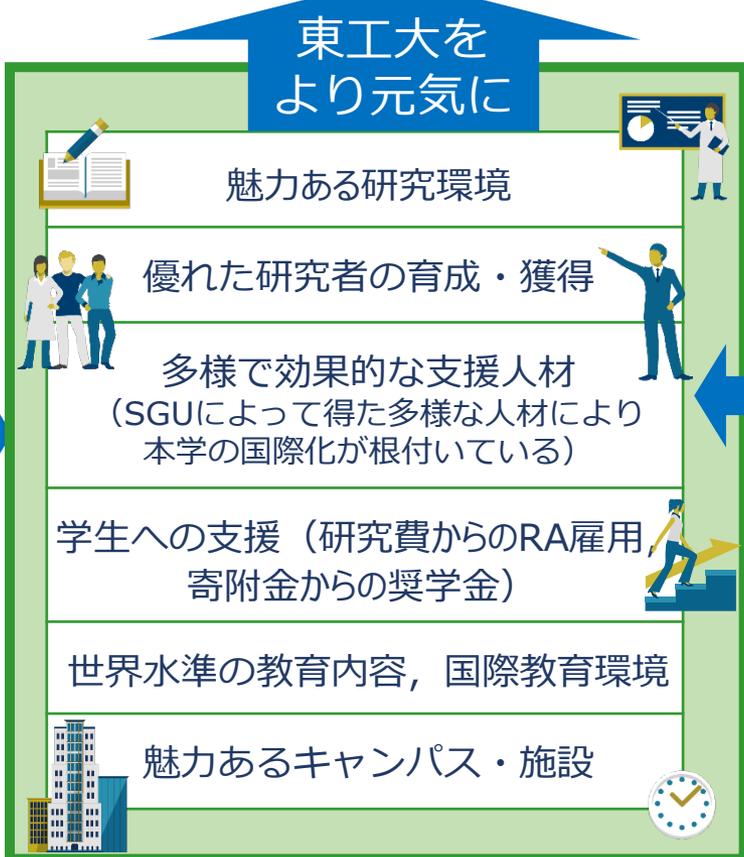
長期的/安定的財政基盤の確保と
 資源配分の効率化

- 収入を増やす取組み（学長）
- 社会・産業界との対話（トップセールス）
 - 新しい財源の創出（寄附獲得，授業料改定，田町キャンパスの開発等）
 - 間接経費比率の向上
 - 学長裁量経費の配分（重点投下）

- 学内予算の捻出（プロボスト）
- 学内予算の捻出（プロボスト）
 - コスト分析（戦略的経営オフィス）
 - 部局の将来構想と部局への資源配分の見直し
 - 事務効率化・DX化
 - 構成員へのコスト意識醸成



教育・研究の卓越性の向上





Tokyo Tech

東京工業大学SGU外部評価報告書 概要スライド

外部評価委員（順不同、敬称略）

- 榎木 哲夫 京都大学 工学研究科長・工学部長・副理事
- 小尾 晋之介 慶應義塾大学 理工学部 教授
- 渡邊 誠 千葉大学 理事（教育・国際）

評価の観点

令和3年度に実施したSGU事業自己点検評価書を基に、外部の有識者による外部評価を実施

- 1.ガバナンス改革について
- 2.教育改革について
- 3.研究改革について
- 4.令和2年度中間評価における指摘事項への対応状況について
- 5.総合的な意見について、その他

本学SGU構想の今後の展望

1. ガバナンス改革について

【特徴的と思われる点】

- **大学の目指す姿が具体的な目標指針とともに明確化されたことのメリット**は大きい。その中で、真の国際化を目標に据え、それを表現するキャッチコピー「Tokyo Tech Quality」を明示したこと、大学の特性をさらに強化するために国際的なリーダー輩出と研究成果創出に数値目標を設定したこと、学長の裁量権を増加させるなどガバナンス改革に重きを置いたことが特徴的。
- リーダーシップが執行部の独断とならないように、**学内部局との対話に時間をかけ労力を惜しまず大学組織の特性を尊重する姿勢**に共感する。
- TTABの構築や 学長裁量資源の増強、部局長選考体制の構築はガバナンス改革に相応しい取組であり、なかでも部局長選考を学長指名による方法に変更されたのは、**大学執行部と部局長が現状や方向性を共有しながら大学改革を推進する画期的な取組**であると評価する。
- 大きく、教育と研究で実施していることにより、**教職員のマインドセットの変革、機能的な運営体制、学長裁量資源の増強を同時進行的に実現**できている。

【意見・提案等】

- 大学の第一義の役割は、科学を創造的に次の世代に伝承していくことであり、最先端の科学技術のみならず、産業の基盤をなし、しっかりと伝承していかなければならない科学技術分野も少なからずあるはず。**広く産業界をはじめとする社会との対話**を欠かさず進めていただければと思う。
- 真の国際化に一番寄与するガバナンス改革は、東工大の一番強い領域において具体的な事例を提示することにより、「東工大らしさ」がより明確になると思う。**一番の「セールス・ポイント」をもっと積極的にアピール**していただきたい。

2. 教育改革について

【特徴的と思われる点】

- 学部大学院の一体化を図り、カリキュラムを学院系の形で整理している点で**取組の一貫性**が認められる。ナンバリングで系統を明確にし、クォーター制の導入で年間の学修スケジュールの柔軟性を高めたことも、**学生が主体となるプログラムという考え方をより明確にするもの**と考えられる。
- 大学院での文系教養科目履修必須化や、リベラルアーツ科目履修を義務付ける取組は、**社会の中で活躍できる人材育成として評価**できると思う。**多様性から生み出される新たな研究・教育領域にも期待**したい。
- 国際対応としてはグローバル理工人材育成コースを明記するとともに、学生主体で運営される国際交流施設（Hisao & Hiroko Taki Plaza）の設置により、**学生の希望をより実現化しやすくしたことは良い取組**だと思う。

【意見、提案等】

- 留学プログラムや海外研究活動の**実態の見える化と関係者での共有の必要性**を感じる。
- 博士学位の共同指導から共同学位（ダブルディグリー、ジョイントディグリー）の導入に重きを置いてはどうか。
- 学生個々の実際の進路（国際プログラムへの関り）についてはあまり期待しすぎない方が良いと考える。学生は大学の考えとおりの行動をするとは限らない。むしろ、**大学が提供する場を活用して想定を超えた活動を生み出すような雰囲気づくり**が重要ではないか。取り組みの評価方法自体も時間をかけて長い目で見て作り上げていくべきで、卒業生へのアンケート調査は一つの方法である。国際プログラムには、どこからでも始められるようなゆるやかな体制を用意しておくことも重要。
- 博士修了者の実業界での就職の際には専門領域での研究能力以外に、どのような能力を獲得できたのか（学修成果）について自覚させなければならないと考える。今回教育改革の試みが、**学修成果としての能力にどのような認識をもたせる効果があったか**を明らかにしてほしい。
- 種々の国際化の取組が真の国際化にどう寄与しており何が障壁となっているかについて、**学生の生の声を吸い上げて検証**することも重要。
- 卒業論文等について、国際競争が激しい分野は全て英語にするという取組を実施してはいかがか。また、修士や博士の論文審査において、エクスターナル・エクザミナー（外部審査員）の導入など**国際標準的な審査も必要**ではないか。

3. 研究改革について

【特徴的と思われる点】

- **国際的な研究連携が順調に進んでいる**と見受けられる。従来の附置研究所4つを合体したことで、スケールメリットが現れていると理解した。特に、時限付きの**研究センター、研究所へとステップアップしてゆく仕組みは研究者の意欲にこたえる特徴的で優れた仕組み**だと思う。
- 研究ユニットの主役は、教員ばかりではなく、博士や修士の学生であることも類推でき、「**新たな研究**」の創生につながる**仕組み**ができている。
- 東工大から教員や学生が頻繁に行き来して共同研究を海外で展開するような連携は、**研究力向上のみならず国際人材育成の教育面でも有効**になると思われる。この観点から、Tokyo Tech ANNEX として構想されている取組がぜひ発展的に展開されることを希望する。
- 科学技術創成研究院の構想は素晴らしいと思う。種（シーズ）を实らせて核としそれを幹に成長させて多様な枝を張らせ、そこから新たな種を蒔いていく、という**循環型の成長モデル**はよく考えられている。そして種を实らせるための土壌となるのが「WRHI」であると理解した。

【意見・提案等】

- WRHIの雇用増について、大学側だけでなく**海外研究者側にもメリットとなっていることの明確化が必要**ではないか。
- 海外研究者を招聘する対象となる学問領域の見極めや調査・分析を、URAのような研究支援組織が「アイランド型強み領域」の分析などを踏まえてガバナンスを発揮するべく調査や提言を行う体制になっているのであれば、素晴らしい研究の成長発展モデルであると思った。
- 海外拠点ANNEXの運営には、どの程度の投資を見込んでいるのか。**持続性を含め中長期的なプランが必要**と感じた。東工大の側にも先方のサテライトを招聘するなどして**互恵的な関係を築くことも視野**に入れてはいかかがか。
- 博士学位の授与数は研究大学のアウトプットとして重要な指針で、その中で**国際共同学位**が増えれば特徴としても打ち出せるのではないか。
- 国際共著論文数の増加は示されているが、citation として測られる**研究力の質の評価も追跡**するのが良いと思う。
- 情報発信をより強化し、東工大の多彩な研究や人材育成の取組について、**分野を超えて広く社会全般に発信していく仕組み**をぜひ構築していただきたい。

4. 令和2年度中間評価における指摘事項への対応状況について

- いずれの指摘事項についても**十分に対応されている**と理解した。
- SGU事業で得られた成果の横展開について、**我が国の理工系教育のロールモデルとなるような提案が多々ある**。今後も他の大学が驚くような改革をぜひ実施していただきたい。

【意見・提案等】

- 海外で履修した授業科目の単位認定について、単位認定の制度が十分に機能していないことが学生の海外派遣者数の伸び悩みの原因の一つではないかとの指摘を受け、さまざまな取組を展開されたことは評価できるものの、**現時点ではまだ実効的な結果に結びついていない**と感じた。
- 留学比率は、単位への考え方を少し変えるだけで比率が上がり、実際との乖離を是正できるのであればぜひ対応した方がいい。研究留学という修了要件外の授業科目を設置し1単位付与でもいいのかと思う。または**マイナーとしての学位を付与**することで、単位取得を向上させることも一つの方法ではないだろうか。
- 修士課程修了までに「国際経験」を経た学生の割合90%以上を達成することを独自の評価指標に掲げているが、むしろ、海外に興味を持つ学生をリピータとして**細やかに支援する仕組み**を作り上げ、**真の国際人・国際的研究者として養成していくことが望ましい**と考える。
- 学生からの意見を教育IRでより細かく分析すると良いと思う。

5.総合的な意見について、その他

- SGU構想から指定国立大学法人構想への発展を目指し、指定国立大学法人への指定を獲得してからはSGU構想を超えた取組を拡大的に取り組んできていることに敬意を表す。さらにSGU事業終了後の自走化に向けた取組についても、寄附金収入増加、授業料の改定、産学連携収入増加、資産の有効活用、等の各取組みを策定され、すでに実施に移されているところは、貴学が目指される「**世界最高の理工系総合大学**」に向けて**着実に構想が進んでいる**ことを実感させていただいた。
 - 企業等との連携による教育研究活動を促進し、貴学が生み出す知を社会へ実装することで生まれるイノベーションを通して社会への貢献度を高めるとともに、こうした社会連携で得た資金の一部を教育研究・国際協働等の基盤に投入することで次の社会貢献の原資となる知と人材を生み出していく「**好循環**」の**実現**は素晴らしい構想であると評価する。
 - 「協働研究拠点」の制度も有望な構想。従来の狭い範囲での「**課題請負型**」の産学連携から「**問題発見型**」の産学連携を目指す**明確な意図**を感じた。
-
- 社会から認知されるほどの改革ができるかどうか、**スクールカラーが変わるほどの大きな改革をするつもり**であるか、ということが問われているのではと思う。
 - ほぼ全てのことを網羅的に実施しているにも関わらず、**実態が見えない**のがとても気になった。研究の方は、21のユニットとその名称で、とても具体的である一方で、教育の方は仕組みの説明に留まっているため、勿体無い気がする。
 - 日本の企業が国際競争力を失い、産業の改革が求められているなかで、SGU事業全体の成否は、従来の人材育成の方針から大きく転換できるか否かにかかっているのではないかと思っている。大学だけでなく**企業との対話のチャンネル**をもって、これからのエンジニアに求められる資質、その育成方法などについて継続的な議論を行うことが求められているのではないか。東工大だからこそできる、**日本の製造業全体への大きなインパクトとなるような事業展開に期待**したい。

本学SGU構想の今後の展望

【ガバナンス】

学長の強いリーダーシップの下、全学が一丸となり改革を進めてきたことを評価いただいた。今後も学長が先頭に立って広く社会との対話を進めることで、更なる期待や支援を得て、教育研究活動を強化するとともに、自走化に向け一層の推進を図っていく。また、広報戦略に基づき本学のセールス・ポイントを世界に向けて発信をすることで、国内外の大学・企業との新たな協働の機会創出や国際的なレピュテーションの向上を図り、Tokyo Tech Qualityの浸透を進めていく。

【教育】

学部大学院の一体化やカリキュラムの体系化、教養くさび型教育を含むStudent-centered learningの推進、グローバル理工人コースの推進を高く評価いただいた。今後は、（１）教育改革による学修成果を教務データ・学生アンケートから分析し、さらなる改善を行う、（２）留学生・社会人学生・女子学生など多様性を加速させるための制度・環境の見直しを行う、（３）国際交流施設の活用、DX学習環境の整備により、自主的な学びとキャリア設計、その雰囲気づくりを促進する、（４）世界に伍するリーダーシップ教育・アントレプレナーシップ教育・キャリア教育・正課外活動など全学に共通する教育組織を整備・統合し、多様な学びや取組の充実を図るとともに、学生にとって自信となる国際的経験を増進させる環境を整える。これらの取組により、学生の心に世界を変える「志」を育み、俯瞰力やリーダーシップが身につく卓越した教育を行っていく。

【研究】

科学技術創成研究院の構想に高い評価をいただいた。令和4年度には、国際的な融合研究を推進する国際先駆研究機構（IRFI）を新たに設置し、学長のリーダーシップのもと、新たな知や価値の創出に貢献できる人材を学内外から集め、科学技術の飛躍的發展を目指す世界最高水準の拠点を構築していく体制をさらに強化した。また、Tokyo Tech ANNEX を拠点に海外大学・企業等との連携教育研究を実施するなど国際連携を拡大することにより、将来の社会基盤となるような革新的な研究成果を数多く生み出していくとともに、研究情報を広く発信することにより、国際的なプレゼンスの向上を図っていく。

国立大学法人東京工業大学
スーパーグローバル大学創成支援事業WG主査 三原 久和